

# 平成 27 年度 事業報告書

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

本年度も引続き、次代を担う子ども達の健全な心身の育成に資するため、芸術へのふれあいの場を創出する音楽会の開催、ものづくり文化の高度化とその発展に資する大学研究者等の学術研究活動への助成、また、生涯学習に係る機会の提供を図るため、文化講演会の開催等、地域文化の振興に寄与することを目的として事業を行った。

## 1. 芸術活動の推進及び援助に関する事業

### ◇◆ ニュー・イヤー・コンサートの主催 ◇◆

- ① 運営費用 1,059 千円
- ② 開催日 平成 28 年 1 月 17 日 (日)
- ③ 開催場所 パルナソスホール
- ④ 実施内容



児童・生徒の皆さんが、音楽活動を通して、豊かな人格形成の一助になることを願い、熱心に音楽活動を続けている学校に対し、本格的音楽ホールで発表の場を提供し、音楽活動を支援すべく、姫路市教育委員会との共催で開催した。

今回で第 21 回目を迎え、市内の小学校 5 校と中学校 3 校が合唱した他、吹奏楽で中学校 1 校が出演した。また、招待校として市川町立市川中学校が初出演した。出場者数は約 360 名。

朝日中学校と灘中学校合唱部は、東日本大震災のあと、歌で日本をつなげよう、歌で被災地を応援しよう企画された「歌おう NIPPON プロジェクト」のために書き下ろされた楽曲「ほらね、」など、各校とも息の合ったハーモニーで 2 曲ずつ披露した。

広畑吹奏楽部は、男女総勢 34 名で、1959 年にブロードウェイで上演され、1965 年にミュージカル映画された「サウンド・オブ・ミュージック」ハイライトを力強く演奏し、観客から大きな拍手を受けた。

また、模範演奏として、多久潤子さんのピアノ伴奏をバックに、バリトンの北村僚真さんによる「赤とんぼ」・「箱根八里」、ソプラノの清野千草さんによる「オペラ「リゴレット」より 慕わしい人の名は」の独唱と「オペレッタ「こうもり」より 乾杯の歌」の二重唱が披露された。

最後に、吹奏楽演奏をバックに、出場者と観客とで、東日本大震災からの復興を祈願する楽曲として歌われている「あすという日が」を昨年引続き全員合唱した。

#### 出演校 <合唱>

姫路市立網干・城北・菅生・津田・安室 小学校

姫路市立朝日・広嶺・灘 中学校

#### <吹奏楽>

姫路市立広畑中学校



## ⑤実施内容

今回で第 24 回目を迎え、奈良大学文学部文化財学科教授の坂井秀弥氏を講師に迎え、「邪馬台国からヤマト王権へ —纏向遺跡<sup>まさむく</sup>から考える—」の講演に、500 名近くの聴講者が最後まで熱心に耳を傾けた。

講演の中で坂井氏は、論争が続く邪馬台国所在論は、ヤマト政権の成立過程に直結する問題であり、中国の史書「魏志倭人伝」に記された邪馬台国までの距離と通過する国名を引用され、近畿説を取ると方向は合わないが距離感は一一致する。

また、定型化した大型古墳（箸墓古墳<sup>はしはか</sup>）の成立、卑弥呼が魏から賜ったとの説がある出土した鏡の集中度からも近畿説を支持されました。

さらに、奈良県桜井市にある纏向遺跡から大型建物の遺構が発掘され、そこから出土した土器のうち、九州から関東までの他地域の土器が 2・3 割を占め、幅広い地域間交流を示すなど、同時代の他遺跡にない特出した要素を紹介されました。

最後に、「遺跡などの文化財は、先人の豊かな営みをつたえる大切な財産であり、愛情をもって守り伝え、生かしながら、ひとびとが幸せを感じられる、地域づくりにつなげることに大きな役割がある。そのためには、住民、専門家、行政が三位一体で取り組むことこそがもっとも重要である」とご高説を開陳された。

## 平成 27 年度事業報告の附属明細書

平成 27 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しない。